

本日の見通しー米ダウ 2 万ドルトライ、ドル買い継続かー

2017/01/09(月) 10:38

おはようございます。本日も為替相場に果敢に挑みましょう。

※ご注意: 文中のストラテジーは取引を推奨するものではありません。

アカデミックセミナー『非伝統的金融政策に効果はあるのか?』2017 年 1 月 23 日

宮尾 龍蔵 氏(東京大学大学院経済学研究科教授 前・日本銀行政策委員会審議委員)

https://a.uedaharlowfx.jp/webapp/form/10220_cdp_473/index.do

■変化率・NR7・ピボットなどは下記 URL を参照してください。

http://www.fxmuseum.jp/report/?ppi=detail&report_seq=18220

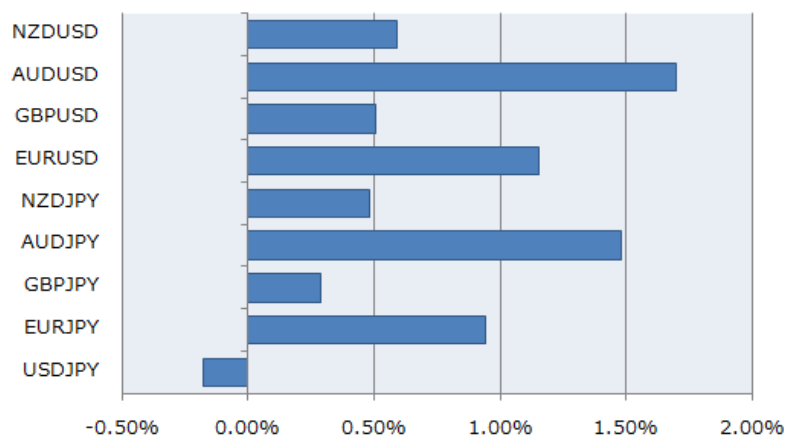
■サマリーは下記 URL を参照してください。

<http://blog.uedaharlowfx.jp/yamauchi/>

■昨日の動き

2017 年の年明けは中国の製造業 PMI(国家統計局、Caixin ともに)が市場予想より上振れ、米 ISM 製造業景況指数も強かったことからドル買い先行して始まりましたが、中国人民元での O/N(翌日物)金利の急拡大などでドル/オフショア人民元でのドルの急落、米長期金利の伸び悩みなどからドルが値幅を伴った調整となりました。ただ、週末の米雇用統計で雇用者数などの小幅は悪化は見られたものの、賃金の上昇が高い伸びとなっていたことでドルの下げ幅は縮小されました。結果、ドルは主要通貨に対して下落、円も豪ドルやユーロに対して大幅な下落となっています(図表 1 参照)。

図表 1: 通貨ペアの騰落率 1/3-1/6(単位:%)



出所: 上田ハーロー

■本日のストラテジー

週末の米雇用統計では、非農業部門雇用者数の増加幅が縮小していたものの、広義の失業率(U6)や27週以上の失業割合(図表2参照)などの改善が継続していることが示されました。また、平均時給の伸びはリーマンショック以降で強い伸びを示したことで、米ドルに回帰、主要通貨の中でドルが上昇しました。トランプ米次期政権に対する期待が再び強まることが予想され、NYダウも本日で節目の20,000ドルを突破して上げが加速する可能性が高いと予想しています。そのため、クロス円全般は底堅く、ドルストレートには下押し圧力がかかるのではないのでしょうか。米では労働市場情勢指数(LMCI)、欧州ではドイツの鉱工業生産と貿易収支、ユーロ圏の失業率の発表がありますが、いずれも、注目度は高くないため、市場センチメントが先行してドルを押し上げることになるのではないのでしょうか。



図表2: 米雇用統計

項目	10月	11月	12月
雇用者数増減	+135	+204	+156
雇用者数	144,943	145,147	145,303
財生産	19,630	19,643	19,655
民間サービス	103,108	103,293	103,425
政府	22,205	22,211	22,223
失業率	4.85%	4.65%	4.72%
労働参加率	62.8%	62.6%	62.7%
広義の失業率	9.5%	9.3%	9.2%
27週以上の失業割合	25.2%	24.8%	24.2%

出所: 米国労働省


■ドル/円


  スタンス: 押し目買い

  ストラテジー: 押し目買い 117.00 円、ストップロス: 116.50 円、ターゲット: 118.30 円


ドルの115割れは実現せず、117円台まで上昇してしまいました。117円台ミドルから上は積極的には買いにくい水準であり、117円割れを待ちたいところです。週末は米の賃金上昇に加え、複数の地区連銀総裁から米の利上げを肯定するような発言が聞かれたことで、このペースでの賃金上昇が続けば年3~4回の利上げの可能性が出てくることで、ドル買いが継続しやすい地合いとなると思います。また、20日には移行作業が遅れているものの、トランプ氏が第45代大統領に就任することから、政策を先取りしたドル買いが入りやすい地合いと思われます。チャート上では日足/一目/基準(115.74円)がサポートとなったことで、転換線(116.83円)がサポートとして機能するかどうかになります。また、レジスタンスが118.60円付近(昨年12/15、1/3高値)にあるため、ここも強く意識されそうです。

■ユーロ

 スタンス: 戻り売り

 ストラテジー: 売り 1.0570 ドル、ストップロス: 1.0630 ドル、ターゲット 1.0550 ドル


 スタンス: 押し目買い


 ストラテジー: 買い 123.10 円、ストップロス: 122.60 円、ターゲット 124.70 円


ユーロ/ドルは反落、ユーロ/円は上昇とドルを軸とした動きになりました。ドイツの経済指標がよいことから、本日のドイツ鉱工業生産、貿易収支も内容は良いことが予想されますが、米国と相対的にみれば、ユーロ買いにはつながりにくいと思われます。ただ、ユーロを売る材料にも乏しいことで、ユーロ/ドルの 1.06 ドル台が売られやすく、1.05 ドル台前半では底堅く推移するというレンジの動きを予想しています。チャートで見ても日足/一目/基準線(1.0605 ドル)が戻りのレジスタンスとなりそうです。ユーロ/円はスタンスを買いに変更しました。上にも書きましたが、ドル/円がしっかりする動きとなりそうなことで、ユーロの急落でもない限りはチャート上のレジスタンスとなっている昨年 12/15 高値の 124.08 円を上抜いていく可能性が高くなったと思います。

■ポンド

 スタンス: 戻り売り


 ストラテジー: 売り 1.2330 ドル、ストップロス: 1.2440 ドル、ターゲット 1.2190 ドル


 スタンス: 押し目買い


 ストラテジー: 買い 143.20 円、ストップロス: 142.30 円、ターゲット 145.10 円


先週は英の景況感の回復がみられましたが、米雇用統計の結果を受けてポンド/ドルは下落、チャートもせっかく日足/一目/雲下限に到達したと思ったら、再び下に放れました。転換線(1.2314 ドル)も下抜けたことで、下落が継続する可能性が高くなったと思っています。ポンド/円は 142 円台での底堅さが伺われます。本来であればポンド/ドルの弱さからポンド/円のスタンスも下落としたいところですが、142 円台前半では底堅いところと、日足/一目/遅行線がかろうじてロウソク足を保っていることから、レジスタンスと思われる転換線(143.77 円)を挟んで推移している状態ならば、1/3 高値の 145.38 円を試す展開を予想しています。。

■豪ドル

 スタンス: 戻り売り

 ストラテジー: 売り 0.7340 ドル、ストップロス: 0.7410 ドル、ターゲット 0.7240 ドル

 スタンス: 戻り売り

 ストラテジー: 売り 86.10 円、ストップロス: 86.80 円、ターゲット 84.60 円

住宅建設許可件数は前月比 7.0%の強い伸びとなり、海外からの住宅投資が健在であることが示されました。これを受けて対ドル、対円で上昇しています。今週は相関が低下していますが中国の消費者物価指数や貿易統計の発表が予定されていますので、豪の経済指標の発表が少ない中では注目されると思います。主要通貨の中では豪ドルの回復が目立っており、材料にもよりますが、戻りの調整に

入ってもよいころ合いではないかと予想しています。特に昨年12月中人からの下落のフィボナッチを見ると50%を超える水準まで戻っています。

■変動率からの予想レンジ 07:21→NYクローズ

Ccy	予想レンジ
USD/JPY	116.28 ~ 117.89
EUR/JPY	122.85 ~ 124.04
GBP/JPY	143.03 ~ 144.69
AUD/JPY	85.14 ~ 86.02
NZD/JPY	81.11 ~ 81.84
CAD/JPY	88.04 ~ 89.20
ZAR/JPY	8.45 ~ 8.59
CNH/JPY	16.99 ~ 17.21
NOK/JPY	13.65 ~ 13.80
MXN/JPY	5.42 ~ 5.58
HKD/JPY	14.98 ~ 15.19
SGD/JPY	81.01 ~ 81.79
EUR/USD	1.0487 ~ 1.0624
GBPUSD	1.2220 ~ 1.2365
AUDUSD	0.7280 ~ 0.7347
NZDUSD	0.6921 ~ 0.6999

■本日の指標発表予定

- ★ 09:30 豪 11月住宅建設許可件数 m/m
 - ★ 16:00 ドイツ 11月鉱工業生産 m/m
 - ★ 16:00 ドイツ 11月貿易収支
 - ★ 16:00 ドイツ 11月経常収支
 - ★ 17:15 スイス 11月実質小売売上高 y/y
 - ★ 19:00 ユーロ圏 11月失業率
 - ★ 00:00 米国 12月米労働市場情勢指数(LMCI)
 - ★ 02:45 米国 ロックハート米アトランタ連銀総裁講演
 - ★ 05:00 米国 11月消費者信用残高 m/m
- ※m/m = 前月比、q/q = 前期比、y/y = 前年比